



# 営農NEWS



## トマト灰色かび病の発生に十分注意しましょう

越冬トマト栽培では、12月からの例年になく低気温の影響で、栽培管理に大変ご苦心されていることと思います。

しかし、これから春に向かいますと、外気温の上昇に伴って暖房機の稼働時間を短縮して、保温を高めるために施設内を密閉します。この影響で、施設内の湿度が上昇しますと、各種病害の発生が多くなる傾向があります。

特に、例年、春先には灰色かび病が発生し、果実被害を生じて大きな減収となります。

本年は例年に比べ早い時期から発生がみられ、一部圃場ではやや高い発生で推移しています。「病害虫発生予報 3 月号（病害虫防除所 平成 27 年 2 月 24 日）」によりますと、2 月下旬現在、促成トマト灰色かび病の発病果率は 0.17%（平年値 0.05%）、発病株率 7.5%（平年値 2.5%）と、平年よりやや高く、今後 1 か月の降水量が平年並か多いと予想され、発生を助長する条件であることから、**3 月の発生はやや多い～多いと予想しています。**

灰色かび病は、発病を助長する多湿環境が継続すれば急速に進展して多発生し、薬剤の防除効果が十分に得られなくなる恐れがあります。また、**有効な薬剤に対して耐性菌が出現しやすい病害で、常に防除効果を確認しながら薬剤防除を行う必要があります。**

このため、下記の防除のポイントを参考にして発病抑制の栽培環境を保持し、事前の予防や病害発生早期発見、早期防除を的確に実施して、高品質で安定した収量確保を図ってください。

### <防除のポイント>

- 1) トマトの健全な生育を促すため、適宜な整枝、剪定による採光や通風の確保、適度な灌水や追肥など、適切な肥培管理に努めてください。
- 2) 花卉の花落ちが悪いと、果実灰色かび病の発生を助長しますので、出来るだけ枯花を取り除きましょう。
- 3) 施設内の多湿条件が続くと、急速に灰色かび病が発生します。昼近くになっても、作物に水滴が残るような場合には、暖房や送風、換気等により施設内の湿度をできるだけ低くするよう努めてください。
- 4) 被害果などを見つけたら直ちに摘除し、施設外へ持ち出して腐熟化させるなど適切に処分してください。施設内や近くに、そのまま放置することは（伝染源となる恐れがありますので）厳禁です。
- 5) 薬剤防除は予防または発病初期から行い、晴れた日の午前中に散布して、夕方までには薬液が乾くようにします。
- 6) 湿度の高い施設では、防除薬剤に「くん煙剤」なども活用しましょう。
- 7) 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、同一系統の連続使用は避けてローテーション散布してください。

表 1 トマト灰色かび病の主な防除薬剤（平成 27 年 2 月 26 日現在）

薬剤名（系統名）	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ファンタジスタ顆粒水和剤（QoI）	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
アフエットフロアブル（SDHI）	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
セイビアーフロアブル20（フェニルピロール）	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
フルピカフロアブル（アニリノピリミジン）	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
ゲッター水和剤（N-フェニルカーバメート+MBC）	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 5 回以内
ロブラール水和剤（ジカルボキシイミド）	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ベルコート水和剤（グアニジン）	3,000～6,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
エコショット（注1）	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / ー

表 2 ミニトマト灰色かび病の主な防除薬剤（平成 27 年 2 月 26 日現在）

薬剤名（系統名）	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ファンタジスタ顆粒水和剤（QoI）	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
アフエットフロアブル（SDHI）	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
セイビアーフロアブル20（フェニルピロール）	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
フルピカフロアブル（アニリノピリミジン）	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
ゲッター水和剤（N-フェニルカーバメート+MBC）	1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ロブラール水和剤（ジカルボキシイミド）	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ベルコート水和剤（グアニジン）	6,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
エコショット（注1）	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / ー

注 1：エコショットは微生物農薬です。灰色かび病の発病前から散布することにより、防除効果が発揮されます。

※ 上記の希釈散布剤以外に、暖房機のダクト取り付け口付近から製剤をダクト内に直接投入し、暖房機を数時間以上稼働させることで灰色かび病を防除する微生物農薬（ボトキラー水和剤：発病前から散布）があります。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040